

グループホームあすか

(別紙6)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300784		
法人名	社会福祉法人敬和会		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	栃木県下野市川中子1465-1 (電話) 0285-40-0102		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年2月10日	評価確定日	平成22年3月25日

【情報提供票より】(平成21年12月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人 8 人	常勤8人, 常勤換算8人 常勤8人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	・光熱費、共益費一各21,000円 ・理美容代、おむつ代一実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年12月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下都賀郡市医師会病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは周辺に田圃地帯が広がり、敷地内には桜や梅等の木々が多数植栽されており、季節を感じる事が出来る静かな環境に位置している。2ユニットのグループホームであるが事務室を兼ねる通路でそれぞれのユニット間が繋がっており、入居者が各ユニット間を行き来する姿も見られた。ユニット名は歴史ある当地を反映して、万葉和歌から「あかね」「むらさき」の名称をつけている。近隣には同法人の特別養護老人ホームがあり、看護師による医療面での連携や医師である理事長の回診等により、入居者の安全・安心に努めている。管理者及び職員は入居者には常に穏やかに接しており、入居者と共に語り合い、入居者の立場に立って張り合いのある生活が送れるよう支援をしている。今後、ホームでは市内の同業者との相互訪問や情報交換の実施や地域との関係づくりを更に推進し、入居者へのサービスの質の向上と地域へ開かれた施設づくりに取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果については、スタッフ会議等で話し合い、入居者の視点に立って取り組み事項の再確認を行い、改善に向けた取り組みに活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者と主任・副主任で分担して取り組んだものを、最終的に管理者がまとめあげた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には家族代表、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員に参加してもらい、本年度は3ヶ月に1回のペースで開催している。会議では、ホームの運営状況や行事、入居者の暮らしぶり等を報告すると共に、参加者から助言や意見を出してもらい、サービス向上に活かしている。参加者から提案があったアニマルセラピーも実施に至った。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が来所した際に意見や要望等の確認を行っている他、面会簿に意見欄を設けており、意見や要望等を表しやすい雰囲気づくりに努めている。また、2年に1回無記名アンケートを実施し、出された意見や要望等を入居者のサービス向上に役立てている。重要事項説明書にはホームの苦情相談受付窓口担当と市高齢福祉課の連絡先を明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム周辺は田畑が広がっており、隣近所も数軒ではあるが、入居者は近所に散歩や買い物に出掛けた際には地域住民との会話を楽しんでいる。地域のボランティアがホームの草むしりやレクリエーションへの協力のために来所する他、近隣中学生が体験学習で来所し、七夕の飾り付けを一緒に行う等、地域との交流に取り組んでおり、自治会にも加入している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念をつくりあげており、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、心豊かに、有する能力に応じて可能な限り自立した日常生活を営むことができるような支援、地域の方々に信頼されその人らしく満足した生活が送れるような支援に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの玄関に掲示している他、職員会議やスタッフ会議等においても理念や運営方針の共有に努めている。また、四半期毎の取り組み目標や半年毎の個人目標を設定し、理念の実践に向けた取り組みに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺は田畑が広がっており、隣近所も数軒ではあるが、入居者は近所に散歩や買い物に出掛けた際には地域住民との会話を楽しんでいる。地域のボランティアがホームの草むしりやレクリエーションへの協力のために来所する他、近隣中学生が体験学習で来所し、七夕の飾り付けを一緒に行う等、地域との交流に取り組んでおり、自治会にも加入している。	○	今後は、自治会行事への参加やホームで開催する行事等へ協力してくれているボランティアや地域住民へ参加を呼びかける等、地域との相互交流を実施していくことで、ホームが地域に開かれた場所として気軽に来所できる様な取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、スタッフ会議等で話し合い、入居者の視点に立って取り組み事項の再確認を行い、改善に向けた取り組みに活かしている。今回の自己評価は、管理者と主任・副主任で分担して取り組んだものを、最終的に管理者がまとめあげた。	○	自己評価及び外部評価は、事業所での日々の活動や入居者への支援等の振り返りや気付きの機会でもあることから、全職員で自己評価に取り組み、管理者との話し合いの中から課題等を出し合う等の取り組みに期待したい。

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族代表、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員に参加してもらい、本年度は3ヶ月に1回のペースで開催している。会議では、ホームの運営状況や行事、入居者の暮らしぶり等を報告すると共に、参加者から助言や意見を出してもらい、サービス向上に活かしている。参加者から提案があったアニマルセラピーも実施に至った。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課長が運営推進会議に参加しており、ホームの運営状況や課題、入居者の暮らしぶり等を把握してもらっている他、制度面の相談も適宜行っており連携に努めている。また、市が開催した市民への介護施設の見学会にも協力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への入居者の暮らしぶりや健康状態の報告は、家族の来所時に伝えている他、毎月の請求書の送付時に写真を添えての報告も行っている。また、怪我や病気等の突発的な事態が発生した時には電話での報告も行っている。預かり金は定期的に出納帳を家族に確認してもらい、了解をもらっている。職員の異動等は来所時や広報誌において紹介をしている。	○	家族は、職員の異動や離職に敏感であることから、職員の顔や名前を覚えてもらうためにも、ホーム内に顔写真入りの職員紹介を掲示したり、広報誌に職員紹介のページを設ける等の取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際に意見や要望等の確認を行っている他、面会簿に意見欄を設けており、意見や要望等を表しやすい雰囲気づくりに努めている。また、2年に1回無記名アンケートを実施し、出された意見や要望等を入居者のサービス向上に役立てている。重要事項説明書にはホームの苦情相談受付窓口担当と市高齢福祉課の連絡先を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2つのユニットは廊下で繋がっており、入居者の行き来もあることから、職員を2カ月毎にユニット間で担当を変えており、ユニットにとらわれずに馴染みの関係が築けるよう工夫している。法人内での異動もあるが、引継ぎを徹底し、入居者への影響がでないよう配慮している。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については内容を検討し参加の有無を決めており、認知症介護実践者研修には毎年職員の参加を予定している。内部研修も定期的の実施しており、外部研修の報告や発表、必要とおもわれるテーマを決めて行い、知識の共有と人材育成に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。市内にはグループホームが3カ所あり、他事業所の新設に伴い、当ホームに見学を訪れたことから関係が深まった。今後、職員による相互訪問や情報交換も実施予定であり、サービスの質の向上に向けた取り組みに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人や家族にホームを見学してもらい、ホームでの暮らしぶりや雰囲気等を確認してもらっている。帰宅願望が強い人には、日中のみをホームで過ごしてもらったり、家族等へ面会を依頼する等、徐々にホームでの生活に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者からしもつかれ等の郷土料理の作り方や畑仕事等、人生の先輩から教えてもらうことは多いと考えている。入居者とのコミュニケーションに努め、その人の人生を知ったうえでの介護は重要と考えており、共に学び支え合う関係を築いている。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での見守りや確認により、本人の意向や思いの把握に努めている。意向の表出が困難な入居者へは、日々の関わりの中での表情や仕草、家族からの情報等を参考に推察することで、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居後の様子や本人及び家族の意向を確認し、3ヶ月に1回サービス担当者会議で話し合いを行い、計画作成担当者と担当職員により介護計画の作成を行っている。作成した介護計画は家族にも説明を行い了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは1年に1回行っている。毎月モニタリングを行い、実施状況の評価・確認を行っている。また、入居者の状態に大きな変化があった場合は、医師や関係機関等とも話し合いを行い、状況に応じた介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣にある、同法人の特別養護老人ホームの看護師と医療面での連携・協力体制ができています。また、特別養護老人ホームで開催されている納涼祭や餅つき等の行事や音楽療法にホームの入居者が参加するなど、多機能性を活かした支援をしている。		

グループホームあすか


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に了解のうえで、かかりつけ医を協力医療機関に変更してもらっている。医師である理事長が週1回、回診に来てくれる体制もできており、適切な医療が受けられるように支援している。なお、その他のかかりつけ医での受診については家族と連携をしながら、服薬や症状変化の情報提供など適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、本人と家族の意向を尊重しながら、早い段階から主治医等とも相談する機会を作り、本人の状態から最善の支援方法を検討し、希望に添った対応をしていきたいと考えている。現段階では重度化した場合には入院や特別養護老人ホーム等での対応となっており、重度化した場合の指針や看取りに向けた取り組みは今後の課題でもある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は個人情報保護の意義を理解し、入居者の情報漏洩防止に努めている。個人情報等の記録が保管されている事務室兼通路には関係者以外立ち入りを禁止している。職員は常に入居者へ敬意を持って接しており、プライバシーの確保にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは基本的な1日の日課は設けているが、入居者一人ひとりのペースを尊重しており、確認するよう努めている。食事や入浴、起床や就寝、レクリエーションの参加、新聞や雑誌の定期購買、喫煙や飲酒等、常に本人の希望やペースにより支援している。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配業者を利用しているが、嗜好を把握し、できる限り入居者の希望に沿うように配慮している。入居者は食事の準備や後片付けも職員の支援により行っている。職員は1名が検食を兼ねて一緒に同じ物を食べているが、他の職員は別室で持参した弁当等を食べていた。月1回は希望を聞いたお好みメニューや月2回は買い物や外食を兼ねた外出にも出掛けている。	○	職員の勤務時間や休憩時間の問題もあると思われるが、グループホームの家庭的な雰囲気という観点からも、職員が常に入居者と共に同じ食事が出来るよう検討していくことを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除く毎日、昼食後の時間帯で各棟いずれかで入浴ができるようになっている。週3回を目安に、毎朝入浴の希望の確認を取り、入居者の希望に合わせた時間帯や順番で入れるように配慮している。拒否傾向が強い人には、声かけやタイミングを見計らい対応している。ゆず湯や菖蒲湯の他、入浴剤を用いて日々の入浴に変化をつけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの趣味や嗜好の把握に努め、食事の準備や後片付け、共用部や部屋の清掃、洗濯物たたみ、畑仕事等の役割や、ぬり絵、歌、外出等の一人ひとりの楽しみごとや気晴らしの支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にはホームの敷地内や周辺への散歩、毎月の外食やドライブ、買い物等に出かけており、できるかぎり外出する機会を設け支援をしている。家族等との外出の機会も積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	訪問時、1つのユニットの玄関は施錠されていなかったが、もう1つのユニットの玄関は外出傾向が強い入居者の安全性を考慮して施錠されていた。また、門扉にも施錠がされており、家族や外部からの訪問者はダイヤル式の暗証番号を解除して出入りしている。	○	施錠することでの入居者へ及ぼす影響や家族や地域にも開かれたホームという観点を踏まえ、安全対策や職員の見守りの方法の構築等、今後も鍵を掛けないケアの可能性について更なる検討を期待したい。

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練は年3～4回実施している。また、夜間時を想定した訓練も3ヶ月毎に実施しており、消防署員とも連携を図りながら、避難方法等の指導も受けている。スプリンクラーの設置も予定している。	○	火災や地震等の災害時における、入居者の避難等において事業所だけの対応の限界も見極め、今後は地域住民や消防団にも避難訓練等に参加・協力を依頼していく他、運営推進会議の場でも話し合う等、地域との防災における協力体制の構築に向けた取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は、宅配業者を利用しており、栄養バランスやカロリーなどが計算されたメニューになっている。食事や水分摂取量については、一人ひとりチェック表を用いて1日の栄養や水分摂取量を把握し、適切な摂取ができるよう支援している。日々のバイタルチェックや年1回の健康診断により健康状態の管理にも努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット毎に違った趣きとなっているが、それぞれの共用空間は圧迫間のない高い天井が設けられ、天窓からの採光にも配慮された造りになっている。また、家庭的な雰囲気を出すため、家具や物品などは家庭で使うものを使用している。季節の花を生けたり、入居者の写真や作品などが掲示されており、入居者が思い思いに過ごす姿が見られた。共用空間は清掃が行き届いており、換気や温度は適切に管理され、不快な臭い等は感じられなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に本人や家族に使い慣れた馴染みの品々の持ち込みを促しており、本人が使い慣れた筆筒やテレビ等が持込まれている。また、家族との写真やレクリエーション等で作成した作品が飾られる等、入居者各々の個性が溢れる居室づくりがなされていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。